

‘ピオーネ’におけるアブサップ液剤の処理方法の検討

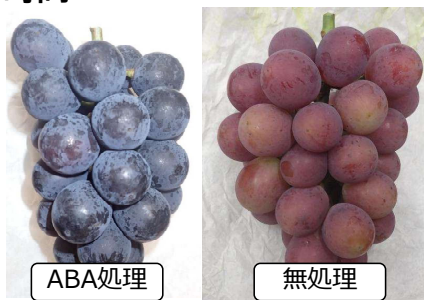
アブサップ液剤の散布処理に係る除袋作業の省力化を目指して

1. アブサップ液剤による着色促進

近年、夜温の上昇による着色不良が問題となっている。
対策として、植調剤(アブサップ液剤、以下ABA)の散布があるが、散布時の果実袋の除袋及び再被覆に労力を要している。

表1 ABA散布に要する時間

作業時間 (分/10a)	
除袋	100
散布	140
再被覆	285
合計	565



ABA処理による果房の着色

2. 試験区の概要(処理濃度100倍、散布量約5ml/房)

- ・カサかけ区: 6/26にカサかけし、無袋で栽培。7/24にABAを散布。
- ・巻き上げ区: 6/26に果実袋を被覆、7/24のABA散布時に果実袋を切開し巻き上げ。散布後巻き下ろして被覆。
- ・慣行区: 6/26に果実袋を被覆、7/24のABA散布時に果実袋を除袋し、再被覆。



カサかけ区



巻き上げ区



慣行区

3. 試験結果(R7)

表2 ABA散布前後の果実袋等の処理に要する時間

試験区	作業時間(秒/房)				
	散布前被覆	除袋	再被覆	合計	割合
カサかけ区	26.7	0.0	0.0	26.7	50.0
巻き上げ区	23.2	19.2	7.4	49.8	93.2
慣行区	23.2	7.2	23.0	53.4	100.0



カサかけ区



巻き上げ区



慣行区



無処理区

表3 ABAの処理方法が果実品質に及ぼす影響

試験区	果房重 (g)	1粒重 (g)	粒数 (粒)	果皮色 (c c)	アントシアニン含量 (μg/cm ²)	糖度 (° Brix)	酒石酸含量 (g/100ml)
カサかけ区	542	15.9	33	8.0ab	80.8	19.2	0.81
巻き上げ区	558	15.9	34	9.2a	102.0	18.7	0.82
慣行区	556	16.1	33	8.7ab	99.3	18.7	0.86
無処理区	548	15.9	33	7.6b	86.3	18.6	0.92
有意差 ²⁾	ns	ns	ns	*	ns	ns	ns

²⁾Tukeyの多重検定で異符号間に5%水準で有意差あり。nsは有意差なしを示す。(n=3)

・作業時間はカサかけ区で約50%、巻き上げ区で約7%減少(表2)。
・処理方法の違いによる果実品質への影響無し。
果皮色は慣行区と同程度に向上(表3)。
→ ABAの省力的な処理法として有効であることが示唆されたが、継続調査が必要。